

ベネッセ シニア・介護研究所
認知症ケアメソッド®の活用を促進するオンライン講座の効果について、
第 12 回 IAGG アジア/オセアニア国際老年学会議（IAGG-AOR2023）にて発表
 オンライン講座が認知症ケアメソッド®の実践を後押しできる可能性を示唆、
 英語版の認知症ケアメソッド®も初公開

株式会社ベネッセスタイルケア（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：滝山 真也）の社内シンクタンクであるベネッセ シニア・介護研究所は、2020 年に認知症ケアメソッド®「あなたと生きる世界をつくることば」を開発し、2021 年 3 月から自社ホームページにて公開しています^{注1}。2022 年 3 月からは社内での活用促進のためのオンライン講座を行っており、この度その効果検証の結果をまとめました。

認知症ケアメソッド®とは、ベネッセスタイルケアの 300 を超える高齢者向けホームでの、認知症の方をはじめとする様々なご入居者様にうまく寄りそうことのできた事例を集め、うまくいった理由や背景を紐解き共通項でまとめ、パターン・ランゲージ^{注2}の手法を用いて「ノウハウ」「コツ」といった実践知を言語化することで、再現可能にしたものです。全 40 個のメソッドは、職員が「できそう」「やってみたい」と思い、すぐに具体的な行動に移せるよう、ホームとご入居者様を取り巻く状況と、その状況において起こりがちな問題、その問題を解決に導くための具体的な方法、その方法によってもたらされる結果を、わかりやすく記述しています。冊子とカードの形で配布して各ホームでの実践をスタートさせたうえで、さらなる活用を促進するために活用講座をスタートしました。

コロナ禍のためオンライン形式とした 1 時間の講座では、認知症ケアメソッド®の概要説明と活用事例の紹介等を行っていますが、一方通行にならないよう、インタラクティブな仕掛けも導入しています。その結果、事後アンケートに回答した介護職員等 782 名のうち 95.7%が、認知症ケアメソッド®の活用さらに意欲的になったことが確認できました。その理由としては、「認知症ケアにおいて大事なポイントがまとまっているから」「やってみたいと思えるメソッドがあったから」「（メソッドが）当てはまりそうにご入居者様が思い浮かんだから」「取り組みやすそうだから」などが挙げられており、講座を通じて職員の実践を後押しできる可能性が示唆されました。今後は、この結果を反映して認知症ケアメソッド®の活用講座をブラッシュアップしていく予定です。

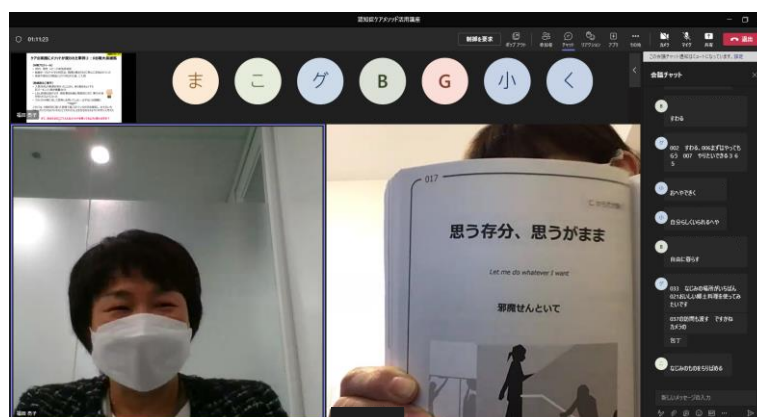


図 1：認知症ケアメソッド®活用講座の様子

No.014 c - からだが動く ホワイトボードを使う <i>Discussion using a whiteboard</i> からだもこころも前向きに  老人ホームは多くの人々が住んでおり、それぞれの人の想いがあります。しかし、その想いが表に出ていないことも多いものです。	【その状況において】 ご入居者が、活動の内容を話し合っていますが、意見がなかなか出ません。 【そこで】 ホワイトボードを使って話し合いをしてみます。 ・ 椅子はホワイトボードに向けて並べます。 ・ 全員が文字が読め、声が聞こえるよう、空間の広さに配慮します。 ・ 今何をしているのか、何の会議をしているのか全員にわかるよう、ホワイトボードの文字を指さしながら進めます。 ・ ご入居者から出た意見を、声に出しながら、よく書ける太字のマーカーで、大きな字で書きます。可能なら、ご入居者自身に書いていただくのも良いでしょう。 ・ 意見が脱線したら、スタッフが話題をふくらませたり、答えていただけそうな方に話題を振ったりすると良いでしょう。 【そうすると】 同じ方向を向いているので、ご入居者は周りの顔を気にせずに意見を言うことができます。意見がホワイトボードに書かれることで、発言者は自分の意見が認められたことを実感し、他の人もどんどん意見を出すことができます。その結果、ご入居者自身の意見が反映され、活動が盛り上がります。
--	---

No.014 C: Help them move their body Use a whiteboard to discuss things <i>Looking forward in body and mind</i>  Many people live in nursing homes, and each person has their own thoughts and feelings. However, those feelings are often not expressed.	In such a situation Residents discuss activities but have a hard time coming up with their opinion. Therefore Use the whiteboard for discussion. ・ Arrange chairs to face the whiteboard. ・ Consider the size of the space so that everyone can read the text and hear the voices. ・ Point to the words on the whiteboard so that everyone knows what is going on and what the meeting is about. ・ Write in large letters using a bold marker that writes well; voice out the opinions expressed by the residents. If possible, ask residents to write their own comments. ・ If opinions go off tangent, staff may want to expand on the topic or bring up the subject with someone who might be able to answer. As a result Facing the same direction, residents can voice their opinions without worrying about the faces around them. When opinions are written on the whiteboard, the speaker feels that their opinion is recognized, and others are increasingly encouraged to express their opinions. Therefore, the residents' own opinions are reflected and the activity becomes more exciting.
--	---

図 2：認知症ケアメソッド®の例（上：日本語版、下：英語版）

上記成果は、2023 年 6 月 12 日～14 日にパシフィコ横浜ノースにて開催された第 12 回アジア／オセアニア国際老年学会議（IAGG-Asia/Oceania Regional Congress 2023）において、“Promotion of Dementia care Method® “Words to create a world for living together with you”: Effect of the online training course”（筆頭発表者：福田亮子）と題して発表いたしました。発表に合わせ、英語版の認知症ケアメソッド®も作成し、当該学会にて初公開いたしました。

ベネッセスタイルケアは、これからも「その方らしさに、深く寄りそう。」を実現するための取り組みを推進するとともに、その効果を検証し広く発信してまいります。

注 1：日本語版は <https://www.benesse-style-care.co.jp/method03/> にて公開中

注 2：1970 年代に、都市計画・建築家のクリストファー・アレグザンダー氏が提唱した、建築・都市計画法において真の住民参加を実現するための共通言語を構築・活用する理論

ベネッセ シニア・介護研究所

<https://www.benesse-style-care.co.jp/lab/>

本内容に関するお問い合わせ

株式会社ベネッセスタイルケア 社長室広報 TEL 03-6836-1111